

資料1-2-3

電波有効利用への新しい動き

■情報通信法

=規制緩和→産業・文化・社会の活性化

■ユビキタス特区

=地域・民間のニーズの顕在化

1. IPDC

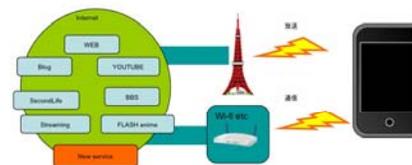
放送波にIP（インターネット・プロトコル）を乗せる情報システム。

福岡

放送波（VHF7ch）で携帯端末やバス内デジタルサイネージ（電子看板）に通信・放送混合の情報伝送を実験中

松江

MediaFlo方式（UHF）で携帯端末や商店街のフォトフレームに動画や子育て支援情報などを提供中



2009年6月発足
会員30社

2. AMIO

放送波で紙メディアの情報を配信するシステム。

福山

テレビ局のデジタル放送に「チラシ」情報を重畳してテレビ受信器に配信する実験を実施中

東京 港区

雑誌・新聞の紙面を宅内のテレビに放送波で送信、携帯電話やゲーム機などで持ち出せる実験を年度内に実施予定



2009年11月発足
会員21社

3. デジタルサイネージ ネットワーク化された電子看板。

広島

※ユビキタスタウン

Wimaxと無線LANを組み合わせ、新交通システム「アストラムライン」車内のサイネージを構築

鹿児島

データ放送と双方向通信を組み合わせ、宿泊施設の客室テレビをサイネージ端末化する実験を実施



2007年7月発足
会員166社

4. スポットワンセグ

微弱電波により提供されるワンセグ放送。

札幌

地下街で商店の情報など独自番組を放送

羽田

羽田空港内で携帯端末向けに空港案内やフライト情報、観光情報などを提供、多言語展開も予定

